

## 2023年度 オープンスペース‘AYUMI’事業報告

(生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業)

統括施設長 久永 洋

### 【生活介護事業】

- ・新規利用者 1名 (他事業所からの異動1名)
- ・退所利用者 なし

#### ●軽作業班 (フロア)

○利用者 12名 ○職員 9名 (パートタイム勤務も含む)

作業活動においては、内職作業を中心に日々の活動を実施する。また、内職以外にも精米作業や油取り生活等への作業に取り組み、余暇活動やグループ活動を組み合わせながらメリハリある活動を実施した。

退職等で職員が安定せず、情報の共有、報告、連絡、相談等が難しい時期もあったが、新たに職員を採用したことや人事配置等の変更で、それらの改善を図る。年度途中からは職員も安定し、職員同士、利用者とのコミュニケーションを深める場面が増えていった。

#### ●軽作業班 (個別)

○利用者 5名 ○職員 4名 (パートタイム勤務も含む)

元ジョブ班の活動場所での活動を実施する。当初は、軽作業班 (フロア) との合同班として活動する予定であったが、利用者の特性等も重なり、軽作業 (個別) 班として活動する形となった。

活動内容においては、自立課題やウォーキング等、また内職作業や音楽活動等に取り組む。フロアと合同で活動する機会もあり、状況に応じて作業や活動の工夫を行なった。

#### ●手工芸

○利用者 11名 ○職員 6名 (パートタイム勤務も含む)

例年通り、手漉き紙を中心に活動を実施し、手漉き紙商品やフェルトボールの作成等、継続して作業活動を行なう。新商品にも力を入れ、様々なアイデアと工夫で、利用者が前向きに取り組めるよう作業を提供した。

7月より、紙漉きの部屋と制作室 (元園芸班活動場所) に分かれ、感覚過敏 (声や音等) の方の対応や集団で過ごすことが難しい利用者への配慮を行ない、集団活動と個別活動のバランスを図った。

#### ●がじゅまる班 ※7月よりサポートシステムあゆみ

○利用者 8名 ○職員 6名 (パートタイム勤務も含む)

園芸班改め、がじゅまる班としてスタートする。内職作業を中心に活動を実施し、その他にもウォーキング、グループ活動を取り入れながら過ごす。7月よりサポートシステムあゆみへの移転もあり、利用者の特性等に配慮しながら、4~6月を準備期間とした。

## ●ワーク

○利用者 9名 ○職員 6名（パートタイム勤務も含む）

個別のスケジュールを活用しながら、グループでの活動も取り入れ日中活動を行う。作業内容として、新たに酒パックのラミネートはがしを取り入れ、前向きに取り組む姿があった。また、運動やポスティング等身体を動かしながら、能動的に作業や活動に取り組んだ。

コミュニケーションカードやスケジュール等を活用する機会も増え、状況に応じて支援ツールを使用する。表出コミュニケーションを促しながら、コミュニケーションの機会が増えるよう関わりながら日中活動を実施した。

### 【就労継続支援事業B型】

- ・新規利用者 2名（奈良西養護学校卒業生2名、）
- ・退所利用者 なし

## ●秋篠パン工房

○利用者 14名 ○職員6名（パートタイム勤務も含む）

コロナウイルスが5類移行したこともあり、外部販売への機会を増やす。また、新商品の開発等、季節を感じられるパンの製造、販売を行う。昨年度よりも売り上げも上がり、利用者のお出勤率も高く、利用者自身のスキルアップや働く意欲の向上も感じられた。また、サタデーでのランチの提供や奈良市市役所内デイリーヤマザキへのパンの納品、バザー等、継続して売り上げアップを図った。

新規利用者2名については、高等学校からの環境の変化もあり、本人の特性やペースを大切にしながら、徐々に仕事の内容や活動を伝え、提供する。戸惑う場面も少々あったが、職員や先輩利用者のサポートもあり、状態を大きく崩すことはなく、本人、ご家族との関係を深めながらパン工房での仕事や新しい生活に順応する。

### 【日中一時支援事業】

主に一般就労者が利用する事業となり、仕事のない日の来所や相談事がある時等、利用者に合わせて事業を実施した。感染症が流行している時は利用者と相談の上、通所の調整を行なう。通所の際は利用者がリフレッシュ出来るよう慣れ親しんだ職員や久々に会う仲間とふれあう機会とした。

### 【短期入所事業】

火曜日と木曜日（男性、女性隔週）での実施となる。コロナ禍で事業を縮小していたが、2023年度は継続して実施することで、申し込みも多く（特に男性）キャンセルしなければならない状況もあった。状況に応じて、火曜日、木曜日以外にも実施し、ご家族の介護負担軽減やショートステイの経験、体験に繋げた。

## 【総評】

2023年度の作業や活動においては、新型コロナウイルスが5類移行に伴い、緩やかなペースでコロナ禍前と同様の日中活動を行なうこととした。基本班活動とし、活動の内容の制限を緩和しながら、利用者同士の交流やイベント、レクリエーション等を実施した。特に「あゆミニ祭」や各班での「日帰りたびりゃんせ」、「もちつき大会」は職員、利用者が大いに楽しむ姿が見られ、楽しい時間を共有することでより一層関係性が深まる時間となった。

感染症については、利用者が罹患することも増え、出勤率を下げる要因となった。また、昨年度までは、在宅支援という形で本人の体調確認や緊急対応の体制等で通所の算定は可能だったが、新型コロナウイルス5類移行に伴い算定不可となり、体調不良や感染症での長期欠席で大幅な収入減となった。

職員については、班活動での活動の期間が長かったこともあり、班同士での横連携に苦慮する場面が多かった。班としてのまとまりは強く感じられたが、班同士での報告、連絡、相談等の連携ミスが重なってしまうこともあり、協力体制を構築することが難しかった。また、職員の退職（本人都合）や休職等も続き、職員を補填するもなかなかまとまらず、連携不足、コミュニケーション不足を解消するまでに時間がかかることとなった。さらに、事業主任や班長が中心になって職員配置の調整をするも、職員が感染症に罹患することもあり、日によって人数が少ない状況での体制となり職員同士、班同士で連携や協力を強化する必要があった。

コロナ禍が明け、制限がなくなる一方で作業や活動の幅をどこまで広げてゆくのか判断が難しい1年であった。クラスターに近い状況や利用者の持病も考えると、足踏みしてしまう状況もあった。ただ、「あゆミニ祭」や「日帰りたびりゃんせ」、「もちつき大会」の実施は、利用者、職員にとって良いきっかけとなり、楽しみがあることでより一層その人に寄り添うことを感じられたように思う。日常と非日常を組み合わせながら、その人にとっての生きがい、やりがいを共に見つけて、支え合う仲間として来年度も様々なことに取り組んでゆければと思う。

## 【職員研修内容】

- ①5月：あゆみの理念
- ②7月：個別支援計画とサービス等利用計画
- ③9月：チームアプローチ
- ④11月：交流会や職場体験についてグループワーク
- ⑤1月：障害者虐待防止の理解と対応
- ⑥3月：身体拘束等の適正化のための指針

## 【外部関係】

- 学校実習：奈良西養護学校、奈良東養護学校、南山城支援学校
- 体験実習：奈良大学、平城小中学校、京西中学校、伏見中学校、登美ヶ丘中学校  
京田辺シュタイナー学校
- 連携機関：奈良市障害者施設長会議、奈良県知的障害者福祉協会、その他事業所等

以上